

平成28年度  
「地域連携型インターンシップ」  
アンケート集計結果（学生対象）

北九州地域産業人材育成フォーラム  
2017年1月

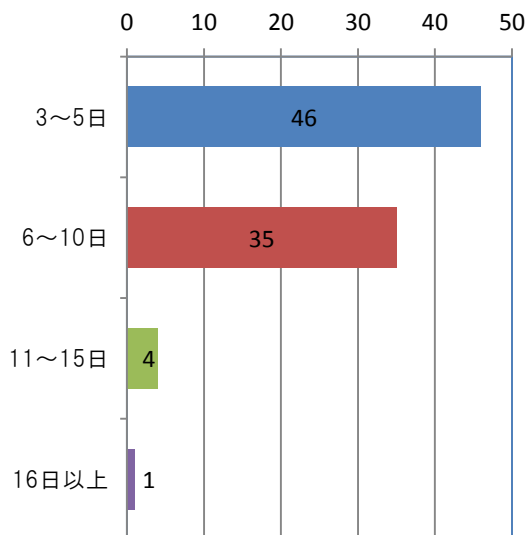
## 1. アンケート概要

実施期間 平成28年8月17日～9月30日

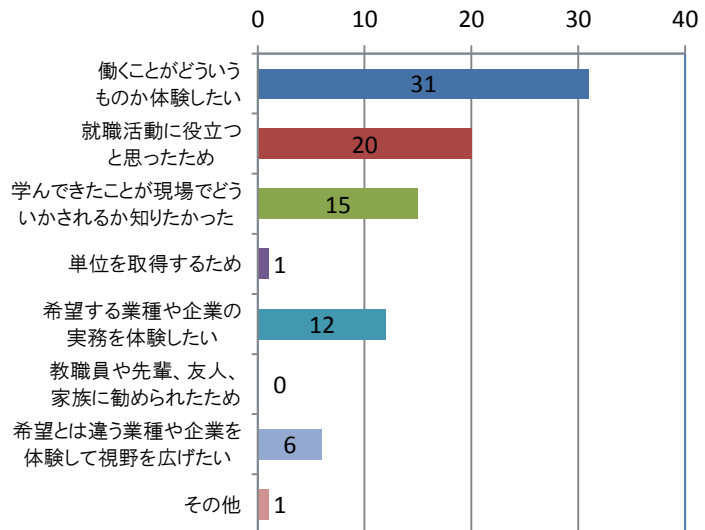
対象者 平成28年度 インターンシップ参加学生 90名

回答数 87名 (回収率 96.7% )

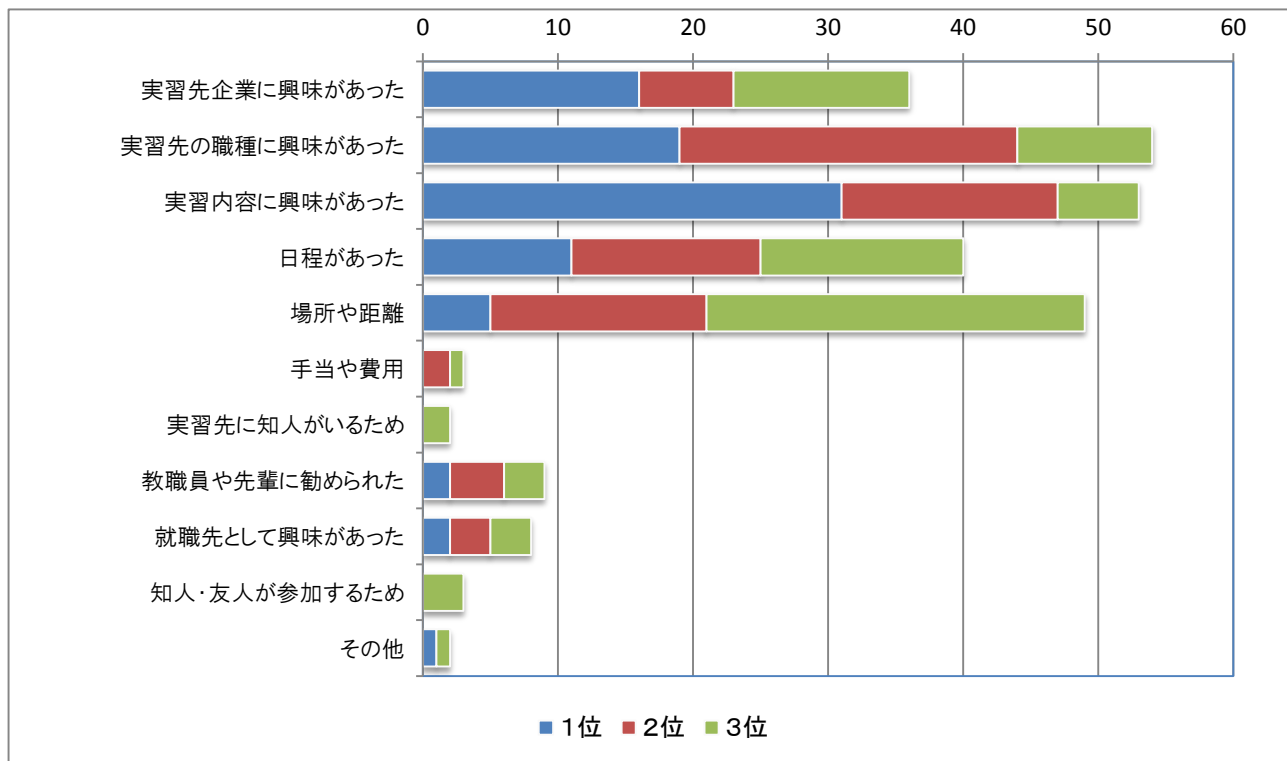
## 2. 実習日数(実働日数)について



## 3. 参加動機について



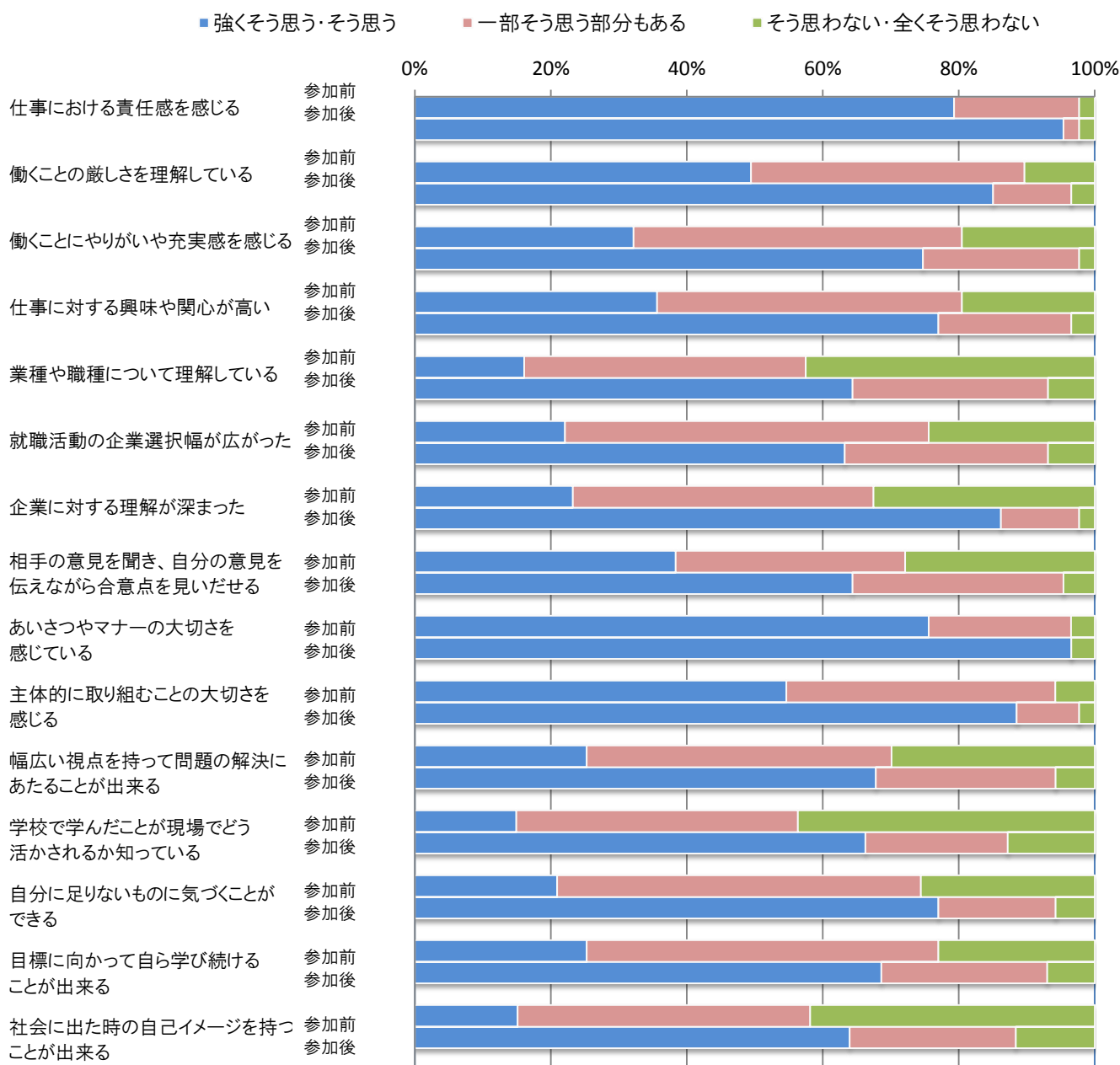
## 4. 実習先を決めた理由は何ですか。(優先順位3位まで回答)



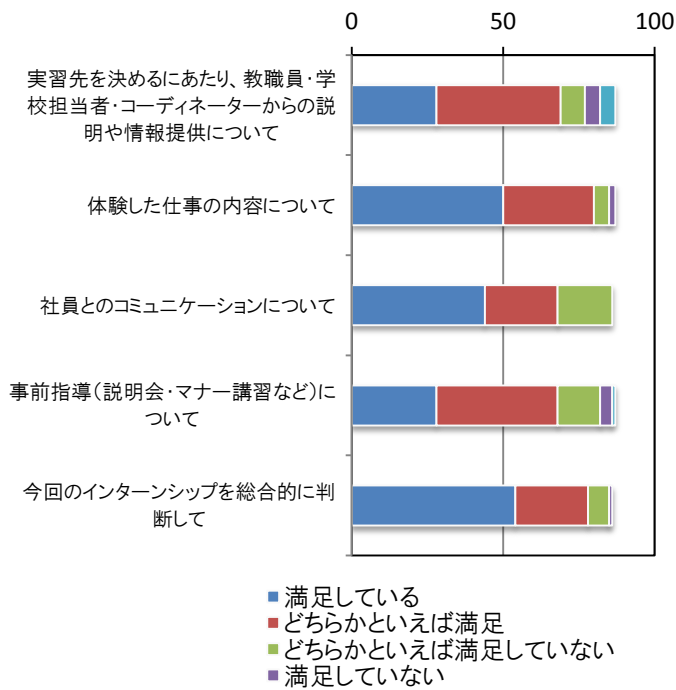
5. インターンシップ参加に向けて行った事前準備を教えてください。

・企業情報をホームページや、会社案内等で収集した	46 件
・実習先企業の通勤手段の確認	3 件
・ビジネスマナーを勉強した	8 件
・身だしなみや、必要なものなどを準備した	8 件
・実習に必要なと思われる知識の復習や予習など	9 件
・生活習慣の改善を行った(早寝・早起きなど)	0 件

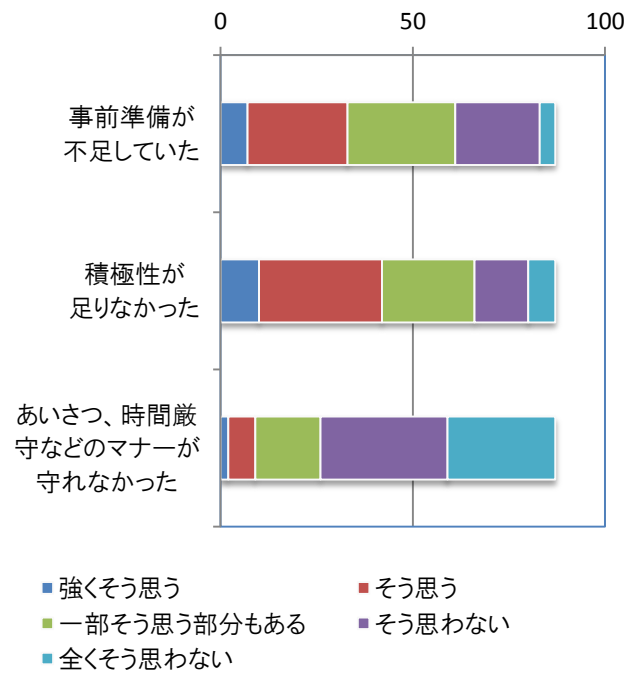
6. インターンシップ参加前と参加後の考え方の変化について教えてください。



7. インターンシップ参加の満足度について、  
もっともあてはまるものを一つを記入して下さい。



8. インターンシップの反省点について、もっともあてはまるものを一つを記入して下さい。



## 9. インターンシップ実習で気付いたことについて記入してください。（抜粋）

- ・インターンシップでは特に自分の勉強がどういう形で使われるのかが明確に分かった。  
学校での勉強がほんの基礎に過ぎないこと、応用できる力があるかどうか、この二つが会社で働く上でのポイントになると気付いた。  
そして、そういった形で応用されるのか分かったので、将来やりたいことが増えてとても良い経験だった。
- ・就職先を決める時は職場の雰囲気等も見ても決めたいと思った。
- ・自分の実習期間中はちょうど新しい製品の試作中だったようで、現場の慌ただしくも凛とした雰囲気を味わうことができた。  
また、他の企業との交流会にも参加させていただき、あいさつやマナーの大切さを実感しました。
- ・良かった点：学校で習った知識が現場でどのように活かされているのかを知ることができた点。  
悪かった点：他の実習相手の方や指導していただいた社員の方と積極的にコミュニケーションを取ることができなかった点。  
興味を持った点：情報系の技術がどのようなところで使用されているか興味を持つことができた点。
- ・学校で専門としている電気回路や制御の分野とは違う機械の分野をメインとした業務を体験させていただきました。実習のほとんどがわからない事ばかりでしたが一つ一つ丁寧にわかりやすく教えて頂きより多くの事を学ぶことができたことが良かったです。レーザー測定の技術について興味を持ちました。
- ・指導者の方を含め、社員の方々と交流ができた。  
判らない点も、指導者と相談することで解消していくことができた。  
しかし逆に言えば、サポートしてもらった部分が多すぎたため、自分の力不足に反省している。
- ・研究で作成するものとは違い、実際にお客様に提供するソフトウェアは、要求された動作を満たしているだけではなく、そのお客様にとって、扱いやすく、すぐに戦力として扱ってもらえるかどうかを念頭に作成することが重要であると感じた。これを実現するためには、お客様と密に連絡、報告を行い、何かあったときに親身にサポートできるかどうかことが重要であることを学んだ。  
これはプログラムのみならず、様々な場面で重要な考え方であり、人に物を提供する際、いかにそのお客様にとって使いやすく、慣れ親しんだ形で提供できるかが、物づくりにおいて重要な考え方である。
- ・企業での研究開発は大学で研究するものとは違い、会社の利益につながるものをつくるものだと感じた。  
本インターンシップを通して今まで自分が学んできた知識が使える場面もあったが、講義で学んだ記憶があるが曖昧にしか覚えていない分野の知識が必要だったり、モノをつくるにあたり様々な知識を複合させる必要性を学ぶことができた。
- ・現在の自分の知識や実力が会社でどのくらい活かすことができるか知り、エンジニアとしての考え方を身につけるという目的を持ってインターンシップに参加した。今回の実習は専門の分野ではなかったが、ExcelやWordの使い方や3DCADの基本的な知識は活かすことができると感じた。  
「設計解析において、先のことを常に考えることは重要である」ということを学んだ。  
2週間という短い期間であったが、社会人としての生活を体験することができ、再来年から社会人になる身としてとても良い刺激になった。
- ・工学部で学んできたことを実際に応用することも出来たが、逆に勉強が足りないと感じた面も多かった。  
また、企業の生産現場を体験することで、ものづくりの大切さと楽しさ、そして大変さを知ることが出来たのも大きな経験と成ったと思う。
- ・インターンシップ実習を通して自分の社会に対する考えの甘さを痛感させられた。  
また実習先の企業がどのような事業をしているのかを知ることができ、自分にはまだ足りない力・スキルが多々あることがわかりよかった。中でも、コミュニケーション能力が大切だということがわかった。

- ・自分の分野ではない企業に行きましたが、大切なのは専門的な知識や技術よりも積極的な姿勢が大切だと感じました。分からない内容でも自ら理解しようとするのが大切だと思います。
- ・実施の会社について(部署や仕事内容、取り組み、決まり、あいさつなど)、インターンシップ実習で初めて詳しく知ることが出来た。また、技術や営業、経理など会社の裏側の部分も初めて知った。実際に実習で仕事を体験して、分かったことも多く、参加前と比べ職業観を身に付けることが出来た。
- ・インターンシップを通して、会社の全体的なイメージを把握することができた。特に各部署でかなり実践的な業務を体験させていただいたのが、自分にとってはかなり大きかったと思う。しかし、自分は社会人になるためにはまだまだであることを実感した。残りの学生生活で自分にたりなかつたことを意識して生活していきたいと思う。
- ・自分が勉強していることと関係がないと思っても、実はつながっていたり、たくさんのことを学ぶ機会があつて良かったと思う。企業の人は自分から学ぼうとする姿勢を示さなければほとんど何も教えてもらえないので、気をつけなければならない。また、自分が大学で学んでいる分野に関する仕事をするのだとばかり思っていたが、幅広い視野で就職先を選ぶことも可能だという考えに至り、インターンシップを行つて良かったと感じている。
- ・今回のインターンシップでは、学んだことが社会でどんな風に活かされているかについて、具体的なイメージを持つことができた。それにより、普段何気なく受ける講義の重要性を実感し、理解を深めておくべきだと感じた。また、今後の実験で使える知識も知ることができたと考ええる。
- ・実際に私が全く知らない言語を利用し実習を行つたため、私の持っている知識と関連付けて行うこともでき、新しい知識も身につけることができました。また、北方の文系の方も一緒に参加していて、文系と理系の考え方の違いや、発表の仕方の違いに気づくことができました。また、専門的な知識だけではなく実験のレポートの書き方などの知識を利用することもできました。
- ・就活に対する喝をたくさんの方からいただき就活に対するモチベーションがとても上がりました。
- ・職場の雰囲気を感じる事ができた。中小企業の長所、短所が非常によく分かつた。

## 10. 実習での感想、後輩へのメッセージ等(抜粋)

- ・インターンシップに行かなければわからない実際の企業での緊張感・雰囲気などがわかり、学校だけでは経験できないこともたくさんあるので、学生の中に一度でもインターンシップに参加しておくことで普通の学校生活、就活などでも役に立つと思います。
- ・もっと早めに2年の時などにインターンシップを行った方が良いと思います。
- ・自分は2年の時、勉強で忙しくてインターンシップに行けなかったが3年の時でもまだ、就職活動に役立つことを学べたので、余裕のある人はぜひインターンシップに行った方がいいです。自分はインターンシップに行ったことで、あいさつ、質問がいかに大切なのかを知ることができました。
- ・実習の感想として、インターンシップは実際に就職する前に自分にその職業が合っている確認する上で重要であり、また仕事に対して理解を深めることが出来るため、実習は有用であると思った。
- ・インターンシップに参加して、よい経験をしました。インターンシップを通じて就職について役立つを思います。日本の企業がどういふふうに住事をして、どうやったら仕事うまく出来るのか、同僚とのよいコミュニケーションを体験しました。インターンシップ積極的に参加しましょう。
- ・今回の就業体験を通じて、社会人としてどうあるべきかなど、まだまだ漠然とした理解できていませんが、教えていただきました。学生と社会人の違いを認識できたと思います。是非参加してみてください。
- ・実際に数日間企業で働かせていただくことで、学校で習ったことがどのように使われているかだけでなく、社会に必要な礼儀やマナーなども体験することができた。この体験は、自分が社会人になって企業で働く時に急な環境の変化に慌てることなく対応できるようになるので非常に役に立つと思った。
- ・貴重な体験になったと思う。東京や大阪などの大都市の有名企業を選ぶ学生も多いが、地元の企業にもそこでしか学べないようなことが多く合ったと感じた後輩には地元企業も視野に入れてインターンシップ先を選んでほしい。
- ・インターンシップの選択肢が狭まらない内に自分の行きたい企業に挑戦すること。また、一度選考に落ちて諦めないこと。
- ・5日間と短い実習期間でしたが、インターンシップに参加しないと体験出来ないことが多くとても貴重な経験となりました。実際に工場の様子も見学させていただき現場の職人さんたちが働いている職場の雰囲気を実感することが出来ました。機械系の製図について興味のある人には是非参加してもらいたいです。2Dや3DのCADの操作はもちろん、実際に仕事を請け負い開発を行って製品をお客様に届けるまでの一連の流れなどのお話を聞かせて頂き、仕事のイメージもつかみやすいと思います。
- ・もう少し研修を続けたかったと思うくらい一週間が短く感じました。実習もそうですが、やはり社員の方々と交流できたのが一番大きかったです。
- ・目的を持ってインターンシップに参加することはとても重要であると思う。目的を持つことで、この期間で何を達成することができたか、何をj得ることができたかを明確にすることができる。また、他のインターンシップ生としっかりコミュニケーションを取ることも大切である。私の場合は、インターンシップ生が私を含めて2人だったので、研修中は常に一緒に行動し、様々な話をする事ができた。インターンシップ生が多いほど、コミュニケーションを取ることは重要になると思う。意見交換をすることで、考え方の幅を広げることができる。
- ・インターンシップは就職活動に直結するという考え方の一方で社会人になった場合の体験をほんの少しではありますが出来ます。それを材料にして就職すべき会社、業種を検討するのに大いに役に立つでしょう。それを元に社会人になる自分の考え方を検討しなおすことが出来、社会人としての考え方も身につけてくると思っています。

- ・学部、院と研究のみをしてきた身として、実際の現場である中小企業の、それも製作部で実習を行えたことは非常に貴重な体験となった。わずか10日間ではあったが、自分たちが将来、設計、開発した製品がどのように多くの人の手によって製造されているかを知ることができ、その苦労や問題点等も感じることが出来た。インターンシップでは必ず自分がやりたい仕事をさせていただけるとは限らないが、与えられた仕事と自分のやりたいことの接点を見出すことが出来れば充実した研修が行えると思う。
- ・研究は学生もやっていますが、企業での研究は結果を出して売れる商品を作るということが前提ですので、取り組む姿勢が違います。なので、いきなり就職すると戸惑うことがあるはずですので、インターンシップにて企業での仕事・研究というものを体感し学生とのギャップを感じてほしいです。
- ・行くか行かないかまようくらいなら、行った方がいい。
- ・インターンシップでは、その企業の業務内容はもちろん、働くことの責任まで学ぶことができます。
- ・今回の実習を通じて、企業・分野の仕事内容について少し理解することができました。しかし、実習期間が短いため、深く理解できなかったため、今後参加する際には、もう少し長い期間の実習ができる場所が良いと感じました。それでも、実施に仕事を体験させていただくことにより、就職活動にたいする意識などが変わり、良い経験になりました。
- ・タカギでの研修は実践的で本当に自分にとってプラスの経験ができます。数日間の工場見学のみより2週間のプログラムの方が実施の仕事も体験できます。ぜひ、インターンシップへ参加して下さい。
- ・実際に行って良かったと思いました。これからの勉強の糧にもなります。ぜひ行ってみてください。
- ・あいさつやマナーに関する知識はより多く持つべきだと、インターンシップを通して感じました。また、インターンシップ先に自ら訪れることで、職場の雰囲気や仕事内容の把握ができると思いました。少しでも興味がある企業があるなら、積極的にインターンシップに参加するべきだと思います。
- ・1週間の実習内で3日間現場実習をもうけて下さり、極細ピンを制作させて下さった。実際に自分の手で作った製品を見たとき非常に感動し、難しさはあったがそれを上回る喜びを得ることができた。インターンシップに行き仕事に関する意欲や興味・関心は確実に向上したので、今回の結果には非常に満足している。後輩にもぜひおすすめしたい会社だった。
- ・単調な作業であっても、なぜそれが必要なのか、どんな目的で行っているかを理解しておくことで、学べることも増えてくると思います。
- ・インターンシップは1日だけなど短期間のもではなく、長期のものを選択した方が良いと思う。その会社の良いところなども多く見つけられるし、社会の雰囲気にとけこめ、社会人としてこれから自分がどのように過ごしていくのかが体験できた。
- ・今回一番感じたことは、自分の気になる業界があれば是非インターンを通して実務を体験していただきたいと思う。説明だけではわからない良さ悪さを知ることが出来ると思います。また、どこの企業に行ってもその先の人生で為になる経験を得ると思います。
- ・5日間だけでしたが本当に充実した活動ができて勉強にもなるので、インターンシップにはぜひ1回は参加して欲しいです。特に学部で就職する人は、まずESを書くだけでも就活の練習になりますし、実際に自分の興味ある分野であったり知らない分野の仕事をする事で、将来の働くビジョンが今以上に明確になると思うので、ぜひ夏休みなどの長期休暇を生かして下さい。



- ・もし、興味のある分野でインターンシップを行っている企業があれば休みをつぶしてでも行った方が良いと感じています。また、ばく然とこのような仕事に就きたいというイメージがわいていなくても、視野が広がるため必ず行った方が良いと思っている。しかしながら、ただインターンシップ研修を行うだけでは企業にも迷惑をかけ、自分自身にも役に立たないことになってしまうため、自分から質問をするなど学ぶという意欲が大事なのではないかと感じた。
- ・今回実習させていただいた企業は過去、北九大の生徒が誰も行っていない企業で、手探りの状態での実習になりましたが、社員の方々がとても暖かく迎えてくれたのでのびのびと実習することができました。学部卒、院卒の学生が社会でどのような仕事をするか、実際に体験することができたので、控える就職活動の参考になりました。  
また、インターンシップならではの経験をたくさん積ませて頂いたので、終了後は少なからず自分が成長した気分を味わうことができました。私はインターンシップに行くか行かないか迷っていましたが、今、行ってよかったと心から思っています。必ず収穫があるので、インターンシップは行くべきです。
- ・私は期間が短かったのと学んでいる分野が違うため深い内容をする事ができませんでしたが、機械科や材料力学先行の学生は2週間でたくさんのお話を学ぶことができると感じます。  
金属金型の奥の深さを知ることができ、また車の1つの業界を知ることができて大変いい経験をさせていただきました。また、たくさんの先輩社員の方と話す機会をいただけたため、進路や人生の相談もさせていただき、就職活動への意欲が高まりました。今後参加する人はいろんな学びがあると思うので特に機械科や金属に興味のある学生は参加してみてください。
- ・私は2年生でインターンに参加し、まだ早いなどのマイナスな意見もあり、その意見も納得できませんが、絶対に行ってよかったと最後に思えるようなインターンにしようと意気込んで挑戦しました。  
やはり知識不足で最初は辛かったですが、わからなくてできない課題に、どのようにして取り組むかが大切だと感じました。インターンではただ知識を身につけるだけではなく社会の考え方なども身につけることができました。行ってよかったと思えるかは、本人の考え次第ですが、普段の大学生活では味わえないものを、味わうことができますので是非挑戦してみてください。
- ・受け入れていただいた企業の業務内容は、私が大学で学んでいることとは全く関係のないものだったため、場違いではないかと不安でした。しかし研修をしっかりとくださったおかげで置いて行かれることはありませんでした。また、他大学の学生と交流できたこともよかったです。興味があると思ったら積極的に参加することが大事だと思いました。実際にその企業で過ごす、想像していた感じと違ったり、意外なものに興味を持つこともあると思います。それを見つけることができるのはインターンシップのメリットだと思います。
- ・インターンシップで大きく自分のキャリアイメージが大きく変わります。ぜひ1社とはいわず多く参加して下さい。
- ・実際の会社の雰囲気やありかたは学校生活ではまず感じ得ないものであると思った。  
これは、インターンシップに参加したことで思えたことなので、インターンには参加した方がいいと思う。